

ロシア・北朝鮮の接近（538号）

2023年 10月 石館

朝鮮中央通信によると、金正恩の専用列車は9月10日午後平壤（ピョンヤン）を出発した。12日未明にロシアに入ったとみられる。平壤からロシア側の国境ハサンまでは鉄路で約850キロだが、平壤出発からロシア入国まで丸1日以上かかった計算だ。

韓国統一省によると、北朝鮮の線路は老朽化が激しくまた車両重量が重すぎ平均時速50キロでしか走行できないとの見方がある。



ロシアとは線路の規格が異なるため台車交換をする必要があり、国境で長時間待機する必要がある。国境からポストチヌイ宇宙基地までは平壤から国境までよりはるかに遠いがロシア側の線路の整備状態良いのかはるかに短時間で着いたようだ。

金正恩は今回のロシア訪問で何故鉄道を利用したのであろうか。外国訪問で専用列車を利用するのは祖父金日成主席からの北朝鮮最高指導者の伝統だ。父の金正日総書記は飛行機嫌いであられ、中口の訪問はすべて鉄道だった。金正恩は、今回の訪ロを含めた8回の外遊のうち5回が鉄路だ。2019年2月にベトナム・ハノイで開かれた2回目の米朝首脳会談では、中国を横断しながら約65時間鉄路で移動した。

韓国メディアによると、専用列車は“太陽号”と呼ばれており、海外訪問の際には最大20両ほどの車両が連結されるという。列車内には会議室や食堂、金正恩氏のプライベートルームなども備えられている。列車は防弾ガラスが使われ、床と壁は頑丈な装甲で守られていることから、車両が重すぎまた線路の整備が悪いことから最高速度は60キロ程度にとどまるという。

金正恩氏が列車移動を好む理由として、通過予定の地点に人員を配置するなど警備体制を構築しやすいことも理由に挙げる。さらに列車は防弾ガラスや頑丈な壁や床で守られていることに加え、レーダーで動きを捕捉される飛行機より位置を把握されにくいとの見方もある。



10日午後、ロシア訪問のため平壤を出発する北朝鮮の金正恩総書記。朝鮮中央通信が配信した=朝鮮

専用列車に乗り込む金正恩

ロシアは専用列車が通過するシベリア鉄道路線を特別管理し、専用列車が停車するすべての駅と周辺施設には数十人の狙撃手を配置する。

首脳会談が行われたロシアの極東の宇宙基地ポストーチヌイはロシアの最新の宇宙基地である。会談の詳細は明らかになっていないが、ロシアと北朝鮮は経済及び宇宙を含む軍事面での協力を深めることで思惑が一致したように見える。

首脳会談が行われたロシアの極東の宇宙基地ポストーチヌイはロシアの最新の宇宙基地である。会談の



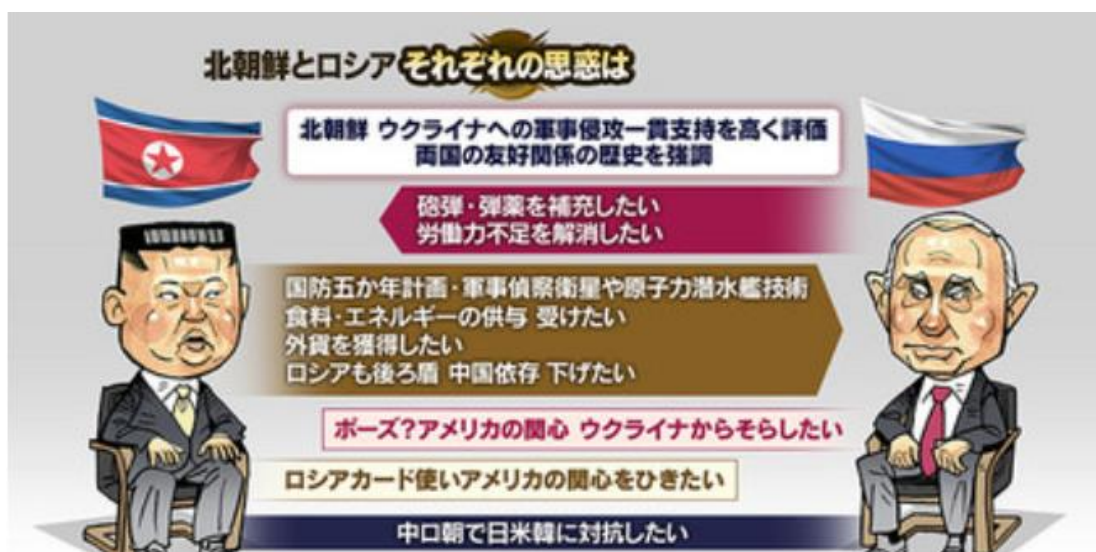
今から4年半前の2019年4月にロシア極東のウラジオストックでプーチンに会った時に比べ、左の今回の会談の時の写真は、金正恩は堂々としてむしろプーチンを見下したような態度が見受けられた。それは、今

回擦り寄ったのはプーチンであったことからかもしれない。

国際社会で孤立する窮地にあり、軍事支援を頼れる数少ない国として北朝鮮に目を付けた。北朝鮮建国75年の9月9日に金正恩に祝電を送ると“75年前、ソ連は朝鮮の地の新しい独立国家を最初に承認した”と当時の主従関係に言及。“私は今後も両者があらゆる面で連携を拡大すると確信する”との言葉に、プーチン氏の今の苦境が映る。

北朝鮮の核開発の基礎を築いたのは旧ソ連だ。米領グアムを射程に収める

中距離弾道弾“ムスダン”など北朝鮮の最新兵器はいずれも旧ソ連製の改良型だった。いまや北朝鮮がロシアに砲弾などの弾薬を供与しようという立場に転じた。



ロシアからすると、軍事面では、ウクライナとの戦争が長期化する中で北朝鮮から砲弾や弾薬を補充したいと思っているであろう。またロシア経済にとって労働力不足が深刻になっており、軍需工場を含めて北朝鮮からの労働力はぜひ欲しいはずだ。

一方金正恩にとっては国防 5 か年計画の目標としている軍事偵察衛星の打ち上げや、原子力潜水艦の建造にはロシアの持つ技術は欲しいはずである。また疲弊した経済を立て直すために食料やエネルギーの供与も受けたいはず。外交的にはロシアの後ろ盾を得ることで中国依存の程度を下げたい思惑もあるであろう。

両者は、中国、ロシア、北朝鮮の軍事面の提携を深め、日米韓に対抗したいという点では互いに一致するであろう。ただロシアは本気で北朝鮮との関係を強めようと思っているかは疑問もある。むしろポーズをとってアメリカの関心をウクライナから北朝鮮に逸らしたいのかもしれない。一方北朝鮮はアメリカの大統領選をにらんで、ロシアカードをちらつかせてアメリカの関心を引こうとしているのか。いずれにせよロシアも北朝鮮も、互いに利用できるカードとして最大限に活用しようとしているのではないか。

ロシアにすれば本来北朝鮮など取るに足りない属国に過ぎず、こんな国に頭を

下げるなどプライドが許さないところだと思うが、足元に火がついているのでちょっと大袈裟だが耐えがたきを耐え、忍びがたきを忍ぶといったところかもしれない。

アメリカは、ロシアと北朝鮮の接近の動きを強く警戒している。ウクライナ情勢をさらに悪化させ、北東アジアの緊張を高める。一方中国は、自国がいわば国際社会の外れものになったロシアと北朝鮮と同列に置かれることを警戒し、両国の接近から距離を置こうとするのではないか。



北朝鮮問題に詳しい西岡麗澤大客員教授によると、7月末ジョイグ国防相が訪朝時に、ロシアがウクライナ戦争で使う自動小銃、砲弾、ロケット砲弾、地雷、冬用軍服などの提供の合意ができ、自動小銃十萬丁をはじめとする武器の引き渡しがすでに始まっているらしい。

ただ北朝鮮は当初予備兵力用の古い自動小銃を出そうとしたが、ロシアはそれを断ったという。現在、朝鮮人民軍が使っている88式自動小銃50万丁の提供を求められたが、すぐには50万丁を出せず、まず10万丁を提供したらしい。その他いろいろな取引があったようだが詳細は不明である。口朝という“悪の枢軸国”の悪魔の取引が、一定程度進んだのではないか。

それに対し日米韓はどう対応すべきか。わが国にとって最優先課題である日本人拉致被害者の救出に口朝の接近がどのような影響を与えるのか注視していかなければならない。